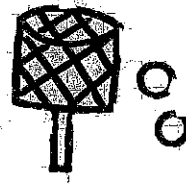




かぜ・そら・たいよう

9月

クラスだより。



9月の中頃まで、夏のような暑さがありました。
 子どもたちは、10月の運動会に向けて、身体を動かす様々な活動をしてきました。一人ひとりが運動会に向けていろんな思いを持ちながら「出来た」や「出来なかった」と日々葛藤しています。私たち保育者は一人ひとりの思いを受け止めながら、共に寄りそい、見守ってきたいと思います。

2023. 9. 29
 円町まぶね隣保園



運動会グッズ / 公園に行き、運動会グッズをしています。かぜ組になって初めての運動会。Tシャツが完成し「運動会に着るの？」と心待ちにしている様子があります。身体を動かすことが好きな子どもたち。運動会では今までしてきた運動遊びを取り入れ、跳んだり、くぐったり、登ってジャンプをしたり忍者に変身して楽しみます。忍者のお面は自由遊びでもよく身に付けて遊んでいる姿があります。忍者のお面をハサミやワザパスを使って作ると今度は手裏剣を作りたい！という声もあつたので、手裏剣も作りました。自分で作ったお面を身に付けるのは嬉しいようで「今日は持参して行こう」と聞く子どもたちです。

運動会当日はこんな時とは違う雰囲気になり、いつもは入会式にできる場所が、できなかったりすることも。あつたままの子どもの姿を温かく見守って頂けたらと思います。また、運動会を通して友だちと一緒に参加することやお家の方に見てもらえる喜びを感じて運動会を楽しんでほしいなと思っています。

友だちとの関わり / 子ども同士の関わりが増え園庭では鬼ごっこやかくれんぼ、室内では椅子を並べて電車ごっこなど友だちに「一緒に遊ぼう」と誘い合いながら遊んでいる姿が増えてきています。「この遊びがしたい」という気持ちから「○○くん、ちゃんと一緒にこの遊びがしたい」という気持ちに変わり、友だちとの仲が深まってきているように感じます。一方で「○○したい」という自己主張が強くなり、思いがぶつかってしまうことや強い口調になってしまうことも。要求がすべて通るわけではないことや相手にも思いがあることを子どもたちは口喧嘩を通じて知ることができ、解決をするという結果だけでなくお互いに思いを伝えあい自分と同じように相手にも思いがあることに気づくその過程を大切にして見守ってきたいと思います。

給食 / 9月からたいよう組やそら組と同じように自分で給食を配膳しています。中身がこぼれないように両手で皿を持ち、食べ終わった後の食器の片付けも行っています。子どもたちはまたいっでできることが増えて嬉しそう。給食は友だちとお話して食べる楽しい時間のひととき。それと同時に食器に手を添える、足を床につけて正しい姿勢で食べるなど食事のマナーも身につけていきたいと思います。

そらぐみ

運動会に向けて。

8月から進めてきた運動会Tシャツが完成しました。9月には、アクリル絵の具とタンポを使って、空に浮かぶ雲をイメージして模様をつけました。Tシャツ一面に11.はりの雲、ちょっとだけの雲、ひとり一人、様々です。また、丸の中に雲をつけたり、あえて丸の外に雲もつけたり、考えながら楽しんでいました。タンポは、スポンジだけでなく、フルーツキャップ(フルーツ用緩衝材)や、フチフチ(梱包用緩衝材)でもしました。一通りどんなものが試してみて、その中から気に入った「これ。」と決めた種類だけで楽しむ姿や、全部のタンポもかわるかわる楽しむ姿がありました。思う存分模様をつけて、天井から飾ると、友だちに「みて〜。」と嬉しそうに見せ合っていました。そして、おうちの方にゼリッンをつけてもらい、嬉しくもあり、なんだかちょっと恥ずかしい気持ちもあるような感じで、見せてくれました。友だちの姿を見て、自分も見て、友だちとのおしゃべりを楽しんでいました。

運動会ごっこやTシャツを作っている中で、少しずつ運動会への期待の気持ちも膨らんでくるようで、「たのしみ」「うんどうかい、まだ？」と聞くようになってきました。それと共に、三角馬に乗れるようになってきました。どこかにつかまりながらたのたの、手を放して一瞬でも立てるようになり、一歩、二歩...と進めるようになり、またはおと保育者が手を添えると歩けるようになりました。子どもたちにとっては、不安な場所に乗るだけでも大変なのに、それでもなんとか乗ろうとし、バランスをとって頑張っていました。「できた！」と感じられた時の子どもたちの表情はキラキラ輝いていました。子どもたちのその頑張る姿や、キラキラした表情を見て、一緒に喜びを共有できたこととても嬉しく思います。

しかし、運動会当日には、たくさんの保護者の方に見てもらい、ドキドキしたり、緊張したり、もてできなかったら...など、様々な思いを心に秘めて迎えることになると思います。普段の力も出せなかったり、それが、悲しくなったりすることもあると思いますが、温かい目で見守っていただけたらいいなと思います。



たいようぐみ

8月末にアクトハル宇治にお泊まりに行ってから早1ヶ月が経ちました。今月から運動会に向けての活動も増え、たいよう組では竹馬、竹のぼり、走りなわとびなど身体を動かしています。早くにスイスイ乗りこなす子どもたちもいますが、中にはどうやって乗るのか、腕の回り方はどうするかわからない子どもたちもいます。その時に「分からんから、もうやらん」とあきらめてしまったり、他の遊びに向いてしまうこともあります。しかし、毎日短時間でも乗る時間を作り、やっていく中で「ちょっと出来るようになってきた」という自分自身の「出来た」と感じる実感を感じると「つぎはあそこまでいってみよう」と自分で目標を立て、ちよとずつ進んでいきました。「できた」と感じてからの子どもの成長はすごく早いと感じました。思うように出来なくても、葛藤を乗り越え、自信に繋がってほしいなと感じています。子どもたちにとって保育園での最後の運動会です。みんながたいよう組として一つになり、これまでの取り組みの中で「こんなに出来るようになったよ」と一番いい姿を見てもらえると嬉しいです。

相手への共感

休み明けには「○○にいった」「○○とあそんだ」と教えてくれますが、子ども同士の会話の中で「へえ〜、いいなあ」と共感する言葉も聞かえてくるようになりました。今までの自分の話をするのが中心だったのが、相手のことも共感し、同じように楽しむ姿が見られます。また、「友だちのようになりたい」「友だちは走るのが早い」と相手に憧れや比較を持つこともあり、友だち同士で意識しあって成長していることが伝わってきます。「自分はこれが出来ないけど、これなら出来る」と自分の得意なことが見つかるという姿も見守っています。

